

## 第 63 回日本救急医学会関東地方会幹事会

---

2013 年 2 月 16 日 (土) 12 : 00 ~ 12 : 55

会場 : 帝京大学板橋キャンパス 大学棟 204 号 (第 7 会場)

### 議事録署名人の確認

新幹事推薦 (資料 1)

堀常任幹事長

常任幹事・監事改選について (資料 2)

堀常任幹事長

### 報告事項

1. 庶務報告 (資料 3)

矢口常任幹事

2. 各常任幹事担当報告

矢口常任幹事

① 看護部会 (資料 4-①, ②)

山口常任幹事

② 救急隊部会 (資料 5-①, ②)

横田常任幹事

③ SOS-KANTO 委員 (資料 6)

矢口常任幹事

④ 編集委員会 (資料 7-①, ②)

森村常任幹事

⑤ ホームページ (資料 8)

猪口常任幹事

3. 第 63 回日本救急医学会関東地方会報告

坂本会長

4. 第 64 回日本救急医学会関東地方会

準備状況報告 (資料 9)

兼坂次期会長

### 審議事項

1. 2012 年度決算報告 (資料 10-①, ②)

矢口常任幹事

2. 2013 年度予算について (資料 11)

矢口常任幹事

3. 名誉会員の推戴について (資料 12)

堀常任幹事長

4. 次々期会長について (資料 13)

堀常任幹事長

## 新幹事候補者リスト

	新幹事候補者名	所属
1	ヤナガワ ヨウイチ 柳川 洋一	順天堂大学 医学部 救急災害科
	推薦者： 杉田 学 順天堂練馬病院 射場 敏明 順天堂大学 救急災害医学	
2	ササキ リョウ 佐々木 亮	独立行政法人国立国際医療研究センター病院 救急科
	推薦者： 木村 昭夫 (独)国立国際医療研究センター病院 救急科 萩原 章嘉 (独)国立国際医療研究センター病院 救急科	
3	ヨシダ トオル 吉田 徹	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 救命救急センター
	推薦者： 榎井 良裕 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 救命救急センター 平 泰彦 聖マリアンナ医科大学	
4	ハナジマ タスク 花島 資	北里大学 医学部 救命救急医学
	推薦者： 相馬 一亥 北里大学医学部 救命救急医学 北原 孝雄 北里大学医学部 救命救急医学	
5	フジヨシ ナオヒコ 藤芳 直彦	千葉県救急医療センター 集中治療科
	推薦者： 小林 繁樹 千葉県救急医療センター 嶋村 文彦 千葉県救急医療センター	
6	カンノウ トモチ 神應 知道	北里大学 医学部 中毒・心身総合救急医学
	推薦者： 相馬 一亥 北里大学医学部 救命救急医学 北原 孝雄 北里大学医学部 救命救急医学	
7	オギノ タカシ 荻野 隆史	国立病院機構高崎総合医療センター ICU(特定集中治療室)
	推薦者： 饗場 庄一 群馬県消防学校(名誉会員) 中野 実 前橋赤十字病院	
8	タカザワ ケンスケ 高沢 研丞	東海大学医学部 外科学系救命救急医学
	推薦者： 猪口 貞樹 東海大学 救命救急医学 中川 儀英 東海大学 救命救急医学	
9	ワカイ シンジロウ 若井 慎二郎	東海大学医学部 外科学系救命救急医学
	推薦者： 猪口 貞樹 東海大学 救命救急医学 中川 儀英 東海大学 救命救急医学	
10	スズキ ヨウスケ 鈴木 陽介	東海大学医学部 外科学系救命救急医学
	推薦者： 猪口 貞樹 東海大学 救命救急医学 中川 儀英 東海大学 救命救急医学	

新幹事候補者リスト

	新幹事候補者名	所属
11	ヨコボリ ショウジ 横堀 将司	日本医科大学付属病院 高度救命救急センター
	推薦者： 横田 裕行 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 増野 智彦 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター	
12	ハツカリ イクスケ 初雁 育介	医療法人柏堤会 戸塚共立第1病院 総合診療科・救急部・麻酔科
	推薦者： 和田 崇文 聖マリアンナ医科大学 救急医学 横川 秀男 医療法人柏堤会 戸塚共立第1病院	
13	ヤマグチ カズマサ 山口 和将	公立昭和病院 救急科
	推薦者： 岡田 保誠 公立昭和病院 小島 直樹 公立昭和病院	
14	ナカオ ヒロユキ 中尾 博之	東京大学医学部附属病院 災害医療マネジメント部
	推薦者： 坂本 哲也 帝京大学医学部 救急医学 山口 芳裕 杏林大学医学部 救急医学	
15	オオタキ ユウヘイ 大瀧 佑平	東京慈恵会医科大学 救急医学講座
	推薦者： 小川 武希 東京慈恵会医科大学 救急医学講座 大槻 穰治 東京慈恵会医科大学 救急医学講座	
16	セラ トシキ 世良 俊樹	東京医科歯科大学医学部附属病院 救命救急センター
	推薦者： 大友 康裕 東京医科歯科大学医学部附属病院 救命救急センター 加地 正人 東京医科歯科大学医学部附属病院 救命救急センター	
17	ナカモリ トモキ 中森 知毅	労働者健康福祉機構 横浜労災病院 救命救急センター、救急災害医療部
	推薦者： 兼坂 茂 横浜労災病院 救命救急センター 木下 弘壽 横浜労災病院 救命救急センター	
18	イシカワ ヒサン 石川 久	帝京大学医学部 救急医学講座
	推薦者： 池田 弘人 帝京大学 救命救急センター 高橋 宏樹 帝京大学 救命救急センター	
19	コイケ ノブユキ 小池 伸享	前橋赤十字病院 高度救命救急センター
	推薦者： 中野 実 前橋赤十字病院 佐藤 憲明 日本医科大学付属病院	
20	キクチ ヒロコ 菊池 広子	日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター
	推薦者： 横田 裕行 日本医科大学 高度救命救急センター 松田 潔 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター	

## 常任幹事・監事 立候補状況について

### 常任幹事立候補者

1. 藤島 清太郎  
(慶應義塾大学医学部 救急医学教室)
2. 松田 潔  
(日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター)
3. 田中 裕  
(順天堂大学浦安病院 救急診療科)
4. 矢口 有乃  
(東京女子医科大学 救急医学)
5. 三宅 康史  
(昭和大学医学部 救急医学)
6. 森村 尚登  
(横浜市立大学大学院医学研究科 救急医学)

### 監事立候補者

1. 山口 芳裕  
(杏林大学医学部救急医学教室)
2. 坂本 哲也  
(帝京大学医学部救急医学講座)

(敬称略)  
立候補受付順

## 2012年度 庶務報告

(2012年12月31日現在)

総会員数：	1095名	(新会員 179名)
幹事	298名	(新幹事* <sup>1</sup> 11名)
名誉	36名	
一般(医師)	552名	(新会員 127名)
一般(看護師)	153名	(新会員 44名)
一般(救急救命士)	8名	(新会員 1名)
一般(薬剤師)	4名	(新会員 1名)
一般(放射線技師)	1名	(新会員 0名)
一般(MSW)	1名	(新会員 0名)
一般(その他)	6名	(新会員 2名)
一般(不明)	36名	(新会員 4名)

\*<sup>1</sup>2011年2月4日幹事会承認

退会者数： 98名 (うち71名は会費滞納による自然退会)

名誉	1名
幹事	2名
一般(医師)	44名
一般(看護師)	38名
一般(不明)	13名

会員のご逝去 3名

渡辺 晃 先生(わたなべ あきら) 名誉会員 2011年11月22日ご逝去  
 石山 和夫 先生(いしやま かずお) 会員 2012年4月ご逝去  
 箕浦 宏彦 先生(みのうら ひろひこ) 会員 2012年ご逝去

## 日本救急医学会関東地方会 看護部会

## ■運営委員会

	担当者名	施設名
担当常任幹事	山口 芳裕	杏林大学医学部附属病院
委員長	佐藤 憲明	日本医科大学附属病院
副委員長	浅香 えみ子	独協医科大学越谷病院
運営委員	木澤 晃代	筑波メディカルセンター病院
運営委員	黒田 啓子	東海大学医学部附属病院
運営委員	鴫田 猛	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
運営委員	藤野 智子	聖マリアンナ医科大学病院
運営委員	横田 由佳	杏林大学医学部附属病院

## ■施設代表者会施設代表者

多田 昌代 (小田原市立病院)	富士田 恭子 (東京慈恵会医科大学附属柏病院)
小暮 亜由美 (川口市立医療センター)	赤池 麻奈美 (東京女子医科大学病院)
神山 由美子 (川崎市立川崎病院)	白石 浩子 (獨協医科大学病院)
馬野 由紀 (川崎市立多摩病院)	森田 千秋 (成田赤十字病院)
山崎 法子 (慶応義塾大学病院)	門馬 治 (日本医科大学武蔵小杉病院)
中村 香代 (国立国際医療研究センター)	岩田 悦子 (日本赤十字社医療センター)
直井 みつえ (済生会宇都宮病院)	西尾 治美 (日本大学医学部附属板橋病院救命救急センター)
染谷 泰子 (JA とりで総合医療センター)	小池 伸享 (前橋赤十字病院高度救命救急センター)
谷島 雅子 (自治医科大学附属病院)	西塔 依久美 (武蔵野赤十字病院)
鈴木 梢 (順天堂大学医学部附属練馬病院)	合口 美幸 (横浜市立市民病院)
高倉 加代 (昭和大学藤が丘病院)	鈴木 久美子 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)
太田 直美 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)	杉本 尚子 (東京都立広尾病院)
田村 富美子 (聖路加国際病院)	平山 幸枝 (帝京大学医学部附属病院)
加藤 弘美 (千葉県救急医療センター)	山田 利幸 (総合病院 国保旭中央病院)
上野 博章 (千葉大学医学部附属病院)	山野辺 みち子 (北里大学病院)
山下 直美 (東京医科歯科大学医学部附属病院)	平井 優美 (東京大学医学部附属病院)
佐伯 悦彦 (東京医科大学病院 救命救急センター)	奈良 唯唯子 (湘南鎌倉総合病院)
加藤 ゆみ子 (独立行政法人国立病院機構水戸医療センター)	
小笠原 由佳 (東海大学医学部附属八王子病院)	

## 日本救急医学会関東地方会看護部会会則

平成 24 年 12 月 3 日看護部会運営委員会承認

## 改正前

## (名称)

第1条 本会の名称は、日本救急医学会関東地方会看護部会と称する。

## (目的)

第2条 本部会は、学研的立場に立って、救急看護の質の向上と発展をめざすことを目的とする。

## (活動)

第3条 本部会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1)本部会は、医師部会と協力して学会を開催する。
- (2)本部会は、必要に応じて研修会を開催する。

## (会員)

第4条 日本救急医学会関東地方会に属する看護師を以て会員とする。

## (資格)

第5条 本部会の会員は看護師であり、入会により資格を取得し、退会により資格を失う。

## (運営委員会)

第6条 看護部会の目的達成のために下記の運営委員を置き、必要な活動を行う。

- (1)運営委員会は、編集委員1名を含む10名以内で構成し、委員長1名、副委員長1名をおく。
- (2)新運営委員は、運営委員の推薦に基づき、運営委員会の賛同を得て選出される。
- (3)運営委員の退任時は、学会開催の2ヵ月前に幹事に申し出る。
- (4)運営委員退任時は運営委員会に出席し、運営委員会の了解を得る。

## (運営委員会の活動)

第7条 運営委員会は下記の活動を行う。

- (1)日本救急医学会関東地方会の学会の企画・運営に協力する。
- (2)必要に応じて、研修会の企画・運営を行う。
- (3)看護部会運営に関する諸事項について検討する。

## 改正後

## (名称)

第1条 本会の名称は、日本救急医学会関東地方会看護部会と称する。

## (目的)

第2条 本部会は、学研的立場に立って、救急看護の質の向上と発展をめざすことを目的とする。

## (活動)

第3条 本部会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1)本部会は、医師部会と協力して学会を開催する。
- (2)本部会は、必要に応じて研修会を開催する。

## (会員)

第4条 日本救急医学会関東地方会に属する看護師を以て会員とする。

## (資格)

第5条 本部会の会員は看護師であり、入会により資格を取得し、退会により資格を失う。

## (運営委員会)

第6条 看護部会の目的達成のために下記の運営委員を置き、必要な活動を行う。

- (1)運営委員会は、編集委員1名を含む10名以内で構成し、委員長1名、副委員長1名をおく。
- (2)新運営委員は、運営委員の推薦に基づき、運営委員会の賛同を得て選出される。
- (3)運営委員の退任時は、**9月末日までに看護部会運営委員長に申し出る。**
- (4)運営委員退任時は運営委員会に出席し、運営委員会の了解を得る。

**2. 看護師の学術集会の積極的な参加を促し、看護部会の活性化を目的とし、看護部会運営委員会の下部組織として施設代表者を置き、必要な活動を行う。**

## (運営委員会の活動)

第7条 運営委員会は下記の活動を行う。

- (1)日本救急医学会関東地方会の学会の企画・運営に協力する。
- (2)必要に応じて、研修会の企画・運営を行う。
- (3)看護部会運営に関する諸事項について検討する。

# 日本救急医学会関東地方会看護部会則

平成 24 年 12 月 3 日看護部会運営委員会承認

(任期)

第 8 条 運営委員の任期は 2 年とする, 但し再任は妨げない。

(学会開催)

第 9 条 学会の開催に関する実質的な運営は, 開催施設に一任する。

(事務局)

第 10 条 本会の事務局は, へるす出版事業部内に置く。

(会則改正)

第 11 条 本部会の会則改正には, 運営委員会の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

附則 本会則は, 平成 8 年 6 月 24 日に, 昭和 60 年 2 月 23 日発効の内規から会則に改め発効する。

内規発行 昭和 60 年 2 月 23 日

会則に改定 平成 8 年 6 月 24 日

一部改定平成 24 年 1 月 20 日

一部改定平成 24 年 6 月 8 日

(任期)

第 8 条 **運営委員および施設代表者の任期は 3 年とする, 但し再任は妨げない。**

(学会開催)

第 9 条 学会の開催に関する実質的な運営は, 開催施設に一任する。

(事務局)

第 10 条 本会の事務局は, へるす出版事業部内に置く。

(会則改正)

第 11 条 本部会の会則改正には, 運営委員会の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

附則 本会則は, 平成 8 年 6 月 24 日に, 昭和 60 年 2 月 23 日発効の内規から会則に改め発効する。

内規発行 昭和 60 年 2 月 23 日

会則に改定 平成 8 年 6 月 24 日

一部改定平成 24 年 1 月 20 日

一部改定平成 24 年 6 月 8 日

**一部改定平成 24 年 12 月 3 日**



## 第50回救急隊員学術研究会 プログラム日程表

会場：帝京平成大学池袋キャンパス 沖永記念ホール 開催日：2013年2月8日（金）

沖永記念ホール	講義室416	講義室419
9:00~9:20 開会式		
9:20~10:30 教育講演1 「救急救命士の処置範囲拡大にかかわる実証研究について」 司会：小林 一広 講師：田邊 晴山		
10:40~11:40 シンポジウム 「医療機関情報の救急活動への活用について」 座長：北村 伸哉／平中 隆 演者：円城寺 雄介 片貝 和晶 連田 直樹 山田 裕之		
	12:00~13:00 ランチョンセミナー1 「院外心停止における現状と課題 ～地方都市の現状と取り組みから～」 座長：長尾 建 演者：名知 祥 共催：アドミス株式会社	12:00~13:00 ランチョンセミナー2 「救急救命士の分娩介助教育コース」 座長：石川 浩史 演者：中川 朝美 共催：レールタルメディカル株式会社
13:20~14:10 一般演題 「医療機関情報の救急活動への活用について」 座長：五十嵐章人 助言者：樽井 武彦		
14:20~15:30 教育講演II 「院外心肺停止傷病者に対するアドレナリン投与の長期予後効果について」 司会：坂本 哲也 講師：中原 慎二		
15:40~16:50 パネルディスカッション 「ガイドライン2010で示す心停止の予防に対する各地の取り組みについて」 座長：安田 真／市原 真 パネリスト：佐藤 清 三ツ井 彰 福嶋 薫 石原 武司		
16:50~17:00 閉会式		

第63回日本救急医学会関東地方会共催  
第50回救急隊員学術研究会プログラム

会場：帝京平成大学冲永記念ホール

8：20～ 開場・受付開始

9：00～9：20 開会式

挨拶	第63回日本救急医学会関東地方会会長	坂本 哲也
	全国消防長会関東支部長（横浜市消防局長）	荒井 守
	開催地消防本部（東京消防庁救急部長）	有賀雄一郎
挨拶	消防庁救急企画室長	海老原 諭

### 教育講演 I

#### 「救急救命士の処置範囲拡大にかかわる実証研究について」

9：20～10：30

司 会：小林 一広 東京消防庁救急指導課長

救急救命東京研修所 田邊 晴山

### シンポジウム

#### 「医療機関情報の救急活動への活用について」

10：40～11：40

座 長：北村 伸哉 君津中央病院  
平中 隆 横浜市消防局

- 1 佐賀県における救急車での iPad 活用による 1 年半の成果と課題  
佐賀県健康福祉本部医務課 円城寺雄介
- 2 群馬県における医療機関情報の救急活動への活用について  
群馬県健康福祉部医務課主幹 片貝 和晶
- 3 救急車へのタブレット端末導入について 稲敷地方広域市町村圏事務組合消防本部 連田 直樹
- 4 横浜市救急医療情報システムの開発と運用効果  
横浜市健康福祉局 医療政策室 救急・災害医療課長 山田 裕之

### ランチョンセミナー I

#### 「院外心停止における現状と課題 ～地方都市の現状と取り組みから～」

12：00～13：00 416教室

座 長：長尾 建 駿河台日本大学病院循環器科

岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター 名知 祥  
共催：アドミス株式会社

## ランチョンセミナー2

### 「救急救命士の分娩介助教育コース」

12:00~13:00 419教室

座長：石川 浩史 神奈川県立こども医療センター 産婦人科

諏訪中央病院 中川 朝美  
共催：レールダルメディカル株式会社

#### 一般演題

13:20~14:10

座長：五十嵐章人 前橋市消防局  
助言者：樽井 武彦 杏林大学医学部

- E-1 みんなで繋ごう命のリレー！！「小学生救命入門コース」実施アンケート結果から  
埼玉県戸田市消防本部 伊藤 智彦
- E-2 医療過疎地域における医師同乗救急隊（ドクターカー）の取り組みについて  
千葉県夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部 岡村 正明
- E-3 DMAT等との連携における課題について  
横浜市消防局 松崎 潤
- E-4 高齢者の救急対応を検討する ～「草加市医療・救急情報管理システム」を構築して～  
埼玉県草加市消防本部 松山千恵美
- E-5 プレホスピタルにおける質の高い胸骨圧迫の評価についての考察 ～隊員間で適宜評価する胸骨圧迫と加速度センサー付きフィードバック器具を用いた胸骨圧迫効果の比較結果から～  
東京消防庁 野村 亮

#### 教育講演Ⅱ

### 「院外心肺停止傷病者に対するアドレナリン投与の長期予後改善効果について」

14:20~15:30

司会：坂本 哲也 帝京大学医学部

聖マリアンナ医科大学 中原 慎二

#### パネルディスカッション

### 「ガイドライン2010で示す心停止の予防に対する各地の取り組みについて」

15:40~16:50

座長：安田 貢 国立病院機構水戸医療センター  
市原 真 さいたま市消防局

- 1 車載の12誘導心電図が有効であった症例～急性冠症候群、脳卒中疑いにてドクターヘリを要請した症例～  
大和市消防本部 佐藤 清
- 2 東京都の脳卒中救急搬送体制について  
東京消防庁 三ツ井 彰
- 3 119番通報受信時における緊急度・重症度判断  
横浜市消防局 福島 薫
- 4 甲府地区消防本部における救急活動中の心停止予防への取り組みについて  
甲府地区広域行政事務組合消防本部 石原 武司

16:50~17:00 閉会式

挨拶 全国メディカルコントロール協議会連絡会会長 小林 國男  
第63回日本救急医学会関東地方会会長 坂本 哲也

## SOS-KANTO 委員会報告

平成 25 年 2 月 16 日

## 1. 2012 年度活動報告

## ①全体会議 2 回開催

第 1 回全体会議 2 月 4 日 (土) 日本青年館ホテル

第 2 回全体会議 11 月 13 日 (火) 国立京都国際会館

## ②SOS-KANTO 運営小委員会 3 回開催

第 1 回運営小委員会 4 月 6 日 (金) AP 品川

第 2 回運営小委員会 6 月 20 日 (水) 榑へるす出版事業部会議室

第 3 回運営小委員会 10 月 5 日 (金) 榑へるす出版事業部会議室

## 2. 参加施設数 68 施設

(新規参加施設：東京都済生会中央病院)

## 3. データ集積状況

		データ(入力済) 症例数	未入力 症例数		
2012年	1月	1,403			
	2月	1,247			
	3月	1,050			
	4月	901			
	5月	772			
	6月	705			
	7月	409	238		
	8月	392	181		
	9月	328	179		
	10月	358	222		
	11月	178	222		
	12月	86	267		
2013年	1月	2	53		
合計		7,831	1,362	9,193 症例	

## 4. 解析テーマ

解析班	GROUP および内容	テーマ数
1	Assessment Guidelines (G 2000 versus G2010) Group (SOS-KANTO Study 10 年間の比較)	3
2	Pre-hospital Care Group (市民応急手当、口頭指導、消防機関救命処置、院外救急医療活動)	23
3	In-hospital Care Group (病院収容後救命処置)	18
4	Post Cardiac Arrest Care Group (心停止後症候群、蘇生後集中治療)	45
5	VF Group (VF 症例全般：背景因子から治療戦略)	6
6	Non-Shockable and/or Non-Cardiac Group	10

	(VF以外の症例、非心原性疾患、心原性と非心原性)	
7	Regional System Group (救急システム：発生場所、地域差、施設、勤務時間帯)	15
8	Outcome Prediction Group (子後予測、蘇生中止基準、採血データ、背景因子)	31
9	Paediatric Resuscitation Study group; PResS (小児解析全般)	11

合計      162

## 5. 今後の予定

### ①2月16日(土) 第63回日本救急医学会関東地方会

[9:00~11:00] シンポジウム 矢口有乃(第1会場 本部棟 臨床大講堂)

[14:30~16:30] ワークショップ(第7会場 大学棟2階 204教室)

[17:30~18:30] SOS-KANTO 全体会議(第7会場 大学棟2階 204教室:210名収容)

### ②第16回日本臨床救急医学会シンポジウム

タイトル：(仮題) SOS-KANTO 2012 study からみえてきたもの

座 長：田原良雄(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター)

相引眞幸(愛媛大学大学院医学研究科 救急侵襲制御医学)

演 者：基調講演10分、発表5分、質疑応答3分 合計90分

(基調講演) SOS-KANTO study <演者> 駿河台日本大学病院 長尾 建

(各解析班発表) <演者> 各解析班内より公募

以上

## 2012年『日本救急医学会関東地方会雑誌』第33巻 掲載報告

2013年2月16日

編集委員長 森村 尚登

## 1) 投稿論文数

全投稿数：94本（医師部会：82本，看護部会：12本，救急隊員学術研究会：0本）

	論文数	備考
2012年学会全発表数	280件 〔医師部会：239件（シンポジウム15件含む）、 看護部会：26件、救急隊員学術研究会：15件〕	投稿率：33.6%
辞退・未着	182本	
2012年発表論文 投稿数	94本（シンポジウム論文12本を含む） （医師部会：82本、看護部会：12本、 救急隊員学術研究会：0本）	

## 【参考：投稿率の推移について】

	2006年 27巻	2007年 28巻	2008年 29巻	2009年 30巻	2010年 31巻	2011年 32巻
学会発表数	189	230	211	212	193	213
辞退・未着	93	155	116	123	101	132
投稿数	96	75	95	89	92	81
投稿率	50.8%	32.6%	45.0%	42.0%	47.7%	38.0%

## 2) 掲載論文数

	論文数
掲載論文数	92本（シンポジウム論文12本を含む） （医師部会：81本，看護部会：11本， 救急隊員学術研究会：0本）
不採用	1本（医師部会）
投稿辞退	1本（看護部会）
論文受理率	98.8%

## 3) 広告数

9社（広告依頼数 全 21社）

#### 4) 2012年の編集スケジュール

2月4日～	論文投稿受付。
3月1日	医師部会・看護部会の発表者に対し督促。
7月～8月	各編集委員は投稿論文の査読を行う。
8月10日	第一回編集委員会。論文の修正点を確認。
8月30日	第二回編集委員会。論文の修正点を確認。
9月中旬	編集委員によって査読が行われた論文を著者に戻し、修正を依頼。
10月	修正原稿が届いていない論文について督促。
11月	著者による修正を編集委員が確認。
11月～12月	メールにて著者に対し再修正依頼。
12月10日	責了。
12月25日	完成，発送。

#### 5) 第33巻での変更点

- ・シンポジウム論文およびシンポジウム総括の掲載
- ・論文受理率の掲載
- ・キーワードおよび索引の追加
- ・前号まで論文はすべて見開き2ページとしていたが、3ページ以上も可とする

以上

## 『日本救急医学会関東地方会雑誌』発表論文の位置づけについて

2013年2月16日  
編集委員長 森村尚登

## 《審議の経緯》

1. 平成23年度第2回常任幹事会兼連絡会議

学術集会発表の論文は投稿規定「Ⅱ. 発表論文」に該当することが確認された。

「Ⅰ. 原著論文・総説・症例報告」および「Ⅱ. 発表論文」の性格づけについては、以前は提出された「Ⅱ. 発表論文」の中から特に優秀な論文を編集委員会が選出し、翌年に「Ⅰ. 原著論文・総説・症例報告」として再度投稿を依頼していたという経緯が紹介された。しかし、業績として認められにくいこと、また翌年に改めて原著論文として掲載することによって二重投稿の疑いを受けてしまうという問題があったことも同時に指摘され、今後「Ⅰ. 原著論文・総説・症例報告」のみを論文として扱い、「Ⅱ. 発表論文」は抄録集として扱うか、あるいは現状を維持するかという問題について、今後継続して審議が必要であるとされた。

2. 平成24年度第1回常任幹事会常任幹事会

現在は編集委員会で査読に近いことが行われ、掲載論文の質が向上しつつあることから、「発表論文」という形式を取りやめ、「症例報告」ないし「原著論文」にしてはどうかという提案があった。それに対し、査読がなされていること、レフリーがしっかりあること（たとえ極めて高い率であっても、対外的にアクセプト率を提示する）などを整備することが条件であろうという意見があった。また「1論文が見開き2ページ」としている書式が崩れるとの意見もあったが、内部規定であるため変更の可能性が示唆された。

また、かつては学術集会時にプログラムのみを作成し、抄録集を作成していなかったため、「Ⅰ. 原著論文・総説・症例報告」と「Ⅱ. 発表論文」の区別が明確であったとの経緯が説明され、今後抄録集を学会誌として作成してはどうかとの提案があった。

今後の方向性について、編集委員会でさらに検討を行うこととなった。

3. 編集委員会持ち回り委員会

「症例報告・原著論文」とする案に賛成する意見が過半数であった。

4. 平成24年度第2回常任幹事会

編集委員会の意見を受け、論文は「症例報告」ないし「原著論文」とすること、抄録集を学会誌として作成することが決定された。

5. 平成24年度編集委員会

常任幹事会の決定を受け、論文は「症例報告」ないし「原著論文」とすることが周知されたが、「症例報告」ないし「原著論文」では看護部会および救急隊部会からの投稿に対応することが難しいという意見が出たため、他学会を参考に「研究速報」など他に区分を設けることとなった。なお本決定に伴う投稿規定の変更は今後行うこととされた。

以上



## 日本救急医学会関東地方会ホームページ報告

## &lt;12.02.22 学術集会のお知らせ・役員一覧・SOS-KANTO を更新&gt;

- ・第63回日本救急医学会関東地方会情報の掲載
- ・会長、次期会長の掲載
- ・SOS-KANTO ページに『日本救急医学会関東地方会は、心肺停止となった患者さんの調査研究（SOS-KANTO）を実施しています』とご案内を掲載

## &lt;12.04.17 学術集会のお知らせ・SOS-KANTO を更新&gt;

- ・第64回日本救急医学会関東地方会情報の掲載
- ・SOS-KANTO 参加施設一覧の修正

## &lt;12.05.11 SOS-KANTO を更新&gt;

- ・SOS-KANTO 参加施設専用ページに各種申請書式を設け、新規解析テーマ等の申請書をダウンロード形式にて掲載

## &lt;12.06.04 役員一覧・SOS-KANTO を更新&gt;

- ・幹事名簿の更新
- ・SOS-KANTO 参加施設一覧の修正

## &lt;12.07.25 会則・組織図を更新&gt;

- ・平成24年度第2回常任幹事会兼連絡会議で承認された本会組織図を掲載
- ・会則の誤字を修正

## &lt;12.08.17 SOS-KANTO 更新&gt;

- ・SOS-KANTO 参加施設専用のページの修正（各種申請書式の変更等）

## &lt;12.09.04 学術集会のお知らせ・SOS-KANTO を更新&gt;

- ・第63回日本救急医学会関東地方会のホームページ URL のリンク
- ・SOS-KANTO 参加施設専用のページの修正（Q&A 集の掲載、申請書式の掲載）

## &lt;12.10.15 SOS-KANTO を更新&gt;

- ・SOS-KANTO 参加施設専用ページの修正（全体会議のご案内の掲載、参考資料の掲載）

## &lt;12.11.21 学術集会のお知らせ・SOS-KANTO を更新&gt;

- ・第63回日本救急医学会関東地方会の演題募集期間の掲載
- ・SOS-KANTO 参加施設一覧の修正

## &lt;12.12.07 常任幹事・監事選任に関するお知らせ・新幹事公募のお知らせを掲載&gt;

- ・常任幹事・監事申請書類をダウンロード形式にて掲載
- ・各種申請書式を更新（幹事申請書類を修正）

## &lt;12.12.18 SOS-KANTO を更新 &gt;

- ・研究期間延長のお知らせを掲載・Q&A 集の修正

第64回 日本救急医学会関東地方会会告（第一報）

- 第64回日本救急医学会関東地方会  
第51回救急隊員学術研究会  
会期 2014年2月1日（土）  
会場 パシフィコ横浜 会議センター
  
- 会長；兼坂 茂（横浜労災病院 救命救急センター）  
テーマ；繋げ救急の志  
シンポジウム；SOS-KANTO 2012（院外・院内）

日本救急医学会関東地方会 2012年度決算報告書  
(2012年1月1日～2012年12月31日)

## 【収入の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
会費収入	6,000,000	6,319,000	319,000	幹事：10,000円・一般：5,000円
当年度・過年度収入		6,284,000		
前受会費収入		35,000		
雑収入	352,000	655,510		
広告掲載料	250,000	500,000	250,000	9社
銀行預金利息	2,000	226	△ 1,774	
別刷代	100,000	155,284	55,284	
収入合計	6,704,000	6,974,510	622,510	

## 【支出の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
事業費	5,907,305	7,247,237		
刊行費(発送費を含む)	2,500,000	2,535,950	△ 35,950	32巻製作費(2011年12月発刊：2,448,538円)
地方会補助費	2,000,000	2,000,000	0	帝京大学
会議費	500,000	344,752	155,248	
常任幹事会		223,676		年2回開催
編集委員会		49,615		年2回開催
会計監査		18,000		
看護部会運営委員会		53,461		年2回開催
交通費	200,000	310,060	△ 110,060	
常任幹事会		58,000		
編集委員会		170,000		
事務局		30,060		
会計監査		8,000		
看護部会運営委員会		44,000		
印刷費	100,000	161,185	△ 61,185	事務局コピー代：123,285円,角2封筒印刷費
ホームページ運営費	261,555	261,555	0	21,000円×12ヵ月+ドメイン管理費
SOS-KANTO 2012	345,750	978,923	△ 633,173	
事務費	1,002,000	1,241,924		
通信費	250,000	247,190	2,810	
切手代		24,200		
その他発送代		222,990		
業務委託費	672,000	672,000	0	委託先：㈱へるす出版事業部
消耗品費	50,000	63,419	△ 13,419	長3封筒等
租税公課	20,000	0	20,000	
振込手数料	10,000	12,125	△ 2,125	
予備費	500,000	500,000	0	SOS-KANTO 2012 人件費として
支出合計	8,411,305	8,087,159	△ 677,854	
収支	-1,707,305	-1,112,649		
前年度(2011年)繰越金	17,599,004	17,599,004		
次年度(2013年)繰越金	16,541,699	16,486,355		


## 監査報告書

日本救急医学会関東地方会の2012年度(2012年1月1日～2012年12月31日)における収支計算書、およびそれに付随する諸帳簿について必要な監査手続きを実施した結果、2012年度の経営状況を適正に表現しており、かつ会計手続きに不正のないことを認める。

以上

2013年 / 月 23日

日本救急医学会関東地方会

監事 大橋教良 監事 兼坂茂 

日本救急医学会関東地方会 2013年度予算(案)  
(2013年1月1日～2013年12月31日)

## 【収入の部】

科目	2013年度予算	2012年度決算
会費収入	6,300,000	6,319,000
雑収入		
広告掲載料	250,000	500,000
銀行預金利息	200	226
その他	100,000	155,284
収入合計	6,650,200	6,974,510

## 【支出の部】

科目	2013年度予算	2012年度決算
事業費		
刊行費(発送費を含む)	3,500,000	2,535,950
地方会補助費	2,000,000	2,000,000
会議費	500,000	344,752
交通費	200,000	310,060
印刷費	100,000	161,185
ホームページ運営費	261,555	261,555
SOS-KANTO 2012	1,853,300	978,923
会議費	170,000	151,477
交通費	114,000	105,000
印刷費	2,000	2,100
通信費	34,300	285,697
消耗品費	3,000	5,214
人件費	1,530,000	384,285
データ作成費	0	45,150
事務費		
通信費	250,000	247,190
業務委託費	672,000	672,000
消耗品費	50,000	63,419
租税公課	20,000	0
振込手数料	10,000	12,125
予備費	50,000	500,000
支出合計	9,466,855	8,087,159
収支	-2,816,655	-1,112,649
前年度繰越金	16,486,355	17,599,004
次年度繰越金	13,669,700	16,486,355

## 名誉会員の推戴について

### 名誉会員候補者

(敬称略 五十音順)

氏名	役員歴	所属先
大橋 教良	平成 16 年～常任幹事 平成 18 年 第 56 回会長 平成 19 年～常任幹事長 平成 22 年～監事	帝京平成大学 現代ライフ学部救急救命コース
相馬 一玄	平成 23 年 第 61 回会長	北里大学病院 救命救急医学

### 日本救急医学会関東地方会会則 (抜粋)

#### 第 3 章 会員

(構成)

第 5 条 本会は、次の会員によって構成する。

- (2) 名誉会員：本会の発展に特に功労のあった者で、別に定める細則により推薦され、承認された者

### 日本救急医学会関東地方会会則施行細則 (抜粋)

#### 第 5 章 名誉会員

第 21 条 名誉会員は、常任幹事が推薦し、幹事会の承認を要する。

第 22 条 名誉会員は、幹事会に出席し、意見を述べるができるが、議決に加わることは出来ない。

2 名誉会員の推戴要件は、以下の通りとする。

- (1) 役員経験者であること
- (2) 65 歳以上であること
- (3) 本人に名誉会員となる意思があること

## 名誉会員名簿

饗場 庄一	荒木 駿二	上田 守三	上松瀬 勝男
小林 國男	佐々木 仁也	島崎 修次	杉山 貢
鈴木 忠	高橋 愛樹	中江 純夫	中野 達也
平澤 博之	前川 和彦	松田 博青	茂木 正壽
矢崎 誠治	山本 保博	相川 直樹	小池 荘介
林 成之	辺見 弘	山中 郁男	芦川 和高
大和田 隆	野口 照義	山本 修三	石田 清
市来寄 潔	梅園 明	葛西 猛	黒川 顯
都築 正和	中田 義隆	原口 義座	針谷 英世

名誉会員のご逝去 1名 渡辺 晃

## 日本救急医学会関東地方会 歴代会長 一覧

	会期年月	会長	所属
第1回	S51(1976)年4月	故 織畑 秀夫	東京女子医科大学
第2回	S52(1977)年2月	故 大内 正夫	済生会神奈川県病院
第3回	S52(1977)年6月	故 飯島 登	聖マリアンナ医科大学
第4回	S53(1978)年2月	故 丹羽 直久	武蔵野赤十字病院
第5回	S53(1978)年6月	西邑 信男	日本医科大学
第6回	S54(1979)年2月	佐々木 仁也	都立墨東病院
第7回	S54(1979)年6月	故 亀谷 寿彦	東邦大学
第8回	S55(1980)年2月	故 若林 利重	東京警察病院
第9回	S55(1980)年6月	故 田中 隆	日本大学駿河台病院
第10回	S56(1981)年2月	故 泉 周雄	国立東京第二病院
第11回	S56(1981)年6月	大和田 隆	北里大学
第12回	S57(1982)年2月	野口 照義	千葉県救急医療センター
第13回	S57(1982)年6月	松田 博青	杏林大学
第14回	S58(1983)年2月	故 渡辺 晃	国立水戸病院
第15回	S58(1983)年6月	石田 清	埼玉医科大学
第16回	S59(1984)年2月	故 矢沢 知海	都立広尾病院
第17回	S59(1984)年6月	都築 正和	東京大学
第18回	S60(1985)年2月	故 大島 武雄	伊勢崎総合保健センター
第19回	S60(1985)年6月	故 大塚 敏文	日本医科大学
第20回	S61(1986)年2月	梅園 明	済生会宇都宮病院
第21回	S61(1986)年6月	小林 國男	帝京大学
第22回	S62(1987)年2月	故 高橋 勝三	武蔵野赤十字病院
第23回	S62(1987)年6月	故 八木 義弘	順天堂大学浦安病院
第24回	S63(1988)年2月	針谷 英世	大宮赤十字病院
第25回	S63(1988)年6月	芦川 和高	聖マリアンナ医科大学
第26回	H1(1989)年2月	中田 義隆	筑波メディカルセンター
第27回	H1(1989)年6月	故 三村 一夫	防衛医科大学校
第28回	H2(1990)年2月	荒木 駿二	公立昭和病院
第29回	H2(1990)年6月	故 上嶋 権兵衛	東邦大学
第30回	H3(1991)年2月	山本 修三	済生会神奈川県病院
第31回	H3(1991)年6月	平澤 博之	千葉大学
第32回	H4(1992)年2月	故 村松 正久	江東病院
第33回	H4(1992)年6月	高橋 愛樹	昭和大学藤が丘病院
第34回	H5(1993)年2月	島崎 修次	杏林大学
第35回	H5(1993)年6月	小池 莊介	東京医科大学



	会期年月	会長	所属
第36回	H6(1994)年2月	故 隣谷 義人	埼玉医科大学
第37回	H6(1994)年6月	上田 守三	東海大学
第38回	H7(1995)年2月	矢崎 誠治	日本大学駿河台病院
第39回	H7(1995)年7月	杉山 貢	横浜市立大学
第40回	H8(1996)年2月	鈴木 忠	東京女子医科大学
第41回	H8(1996)年6月	故 中村 紀夫	東京慈恵会医科大学柏病院
第42回	H9(1997)年2月	前川 和彦	東京大学
第43回	H9(1997)年6月	相川 直樹	慶應義塾大学
第44回	H10(1998)年2月	故 岡田 芳明	防衛医科大学校
第45回	H10(1998)年6月	故 相馬 哲夫	東京医科大学霞ヶ浦病院
第46回	H11(1999)年2月	山中 郁男	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
第47回	H11(1999)年6月	辺見 弘	国立病院機構東京災害医療センター
第48回	H12(2000)年2月	林 成之	日本大学
第49回	H12(2000)年6月	山本 保博	日本医科大学
第50回	H13(2001)年2月	市来寄 潔	国立病院機構東京医療センター
第51回	H13(2001)年6月	饗場 庄一	前橋赤十字病院
第52回	H14(2002)年2月	黒川 顯	日本医科大学多摩永山病院
第53回	H15(2003)年2月	葛西 猛	亀田総合病院
第54回	H16(2004)年3月	有賀 徹	昭和大学
第55回	H17(2005)年2月	益子 邦洋	日本医科大学千葉北総病院
第56回	H18(2006)年2月	大橋 教良	筑波メディカルセンター
第57回	H19(2007)年2月	明石 勝也	聖マリアンナ医科大学
第58回	H20(2008)年2月	堤 晴彦	埼玉医科大学
第59回	H21(2009)年2月	行岡 哲男	東京医科大学
第60回	H22(2010)年2月	長尾 建	駿河台日本大学
第61回	H23(2011)年2月	相馬 一亥	北里大学
第62回	H24(2012)年2月	堀 進悟	慶應義塾大学
第63回	H25(2013)年2月	坂本 哲也	帝京大学
第64回	H26(2014)年2月	兼坂 茂	横浜労災病院
第64回	H27(2015)年		